



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

近代日本におけるゲマインシャフトシュール情報の
普及：教育雑誌記事の分析を中心として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-11-24 キーワード (Ja): キーワード (En): Gemeinschaftsschule, Taisho new education, school as community, experimental school, educational journal 作成者: 香山, 太輝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174455

近代日本におけるゲマインシャフトシューレ情報の普及

—— 教育雑誌記事の分析を中心として ——

香 山 太 輝*

ゲマインシャフトシューレはドイツ新教育運動を代表する学校改革の一事例として知られている。その情報は日本にも伝えられており、その情報によって新しい学級観や学校観が形成されたと指摘されてきた。しかしながら、従来の研究は、学級・学校経営論に関する一部の著作を参照し、その中に現れるゲマインシャフトシューレへの言及に依拠するにとどまっており、日本の教育者たちがゲマインシャフトシューレに関するどのような情報を、どのような状況で入手・研究し、それを自身の取り組みに応用していったのかが検討されていない。本研究では、このような近代日本におけるゲマインシャフトシューレ情報の受容の実態解明に向けた基礎作業として、同情報の流入経緯や普及状況を整理することを課題とした。

具体的には、以下のような作業に取り組んだ。まず、ゲマインシャフトシューレの概要とその情報がどのような媒体によって世界に発信されていたのかを確認した。次に、その情報が日本に流入した経緯と、教育関係雑誌記事数の調査をもとに同情報の普及状況を整理した。最後に、雑誌記事や関連書籍の内容分析によって、日本の教育界における着眼点の傾向を考察した。

その結果、次のことが明らかになった。日本国内におけるゲマインシャフトシューレに関する情報の紹介は1921年からはじまった。1920年代前半は、ドイツ教員組合や新教育連盟の機関誌に掲載された情報をもとに、

ゲマインシャフトシューレにおける教育改革の理念や、設立までの背景を概説する内容の記事が見られた。記事数のピークは1925年で、イエナ・プランが紹介され始めたこととされているのが1928年であったから、これよりも早い時期にゲマインシャフトシューレ情報が普及していたことがわかった。1920年代後半に入ると、ヨーロッパや留学を終えて帰国した人物が記事を寄せるようになり、執筆者がドイツ滞在中に収集したと考えられる多様な著作や論文に加え、執筆者自身の視察報告や視察先の校長や教師から直接聞き取った情報が紹介されるようになっていた。このことによって、より具体的な実践に関わる情報がもたらされた。加えて、雑誌記事や著作の内容分析からは、日本におけるゲマインシャフトシューレの紹介者たちが、革新的な教育活動の形態に対してだけでなく、そうした改革を可能にした実験の特徴やそれに取り組む教師の態度に注目していたことが明らかになった。

Key words

ゲマインシャフトシューレ, 大正新教育, 共同体としての学校, 実験学校, 教育雑誌

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科